

春の香りを楽しもう

木下順次（千葉市）

日 時：2014年5月4日（日）10時30分～12時

天 候：晴れ

参加者：大人12名 子ども2名

担当指導員：岡田敬子・木下順次

香りを楽しむ…。動物（鳥・ムシ・カエル…）には割と勤が働くのだが、いつまでたっても植物が苦手なままの自分にとっては初めて担当するテーマだ。今回のテーマで一緒にした岡田さんからは「お互いに香りを楽しむものをいくつか考えてきてから下見をしましょう」と言われていたものの、まったくのノープラン（思いついたのはアメンボくらい…）で当日を迎え、本番の2時間前に下見に臨んだのだった。ところが、ムシ眼を持っている人にはいくらでも虫が見つかるように、ハナ眼を持っている人にはいくらでも草花の見分けがつくように、岡田さんは次々に香りの元を僕の目の前（ではなく鼻の前）に繰り出したのである。「ああ、身の周りはこんなにも香りに満ち満ちていたことに、自分は全く気が付いていなかったのだ」と改めて思い知らされた。そして、香りがテーマではあるけれども、匂いだけでなく、味だったり、手触りだったりを取り入れることで、あまり得意でなかった植物の見分けが、何となくできることに気がついた。おもえば、野鳥観察からこの道に入った自分の観察スタイルは、見る・聴くが中心で、五感をフルに活用していたとは言い難いものである。

GW連休まん中の日曜日で、天気も良く、参加者は何人集まるだろうかと心配をしたが、本番の始まる時間にはいつも通り10名を超える参加者が来てくれた。岡田さんが、パックに入れて目隠しをしたセリ、サンショウ、ノビル、フキ、カキドオシを事前に用意して下さったので、導入部では、みんなで匂い当てのクイズをした。すべてこれから向かう谷津田にある植物ばかりだ。

谷津田に向かう前の広場ですでに、香りや味の元を次々に探し出していく。足元に生えていた小さな小さな青い花を摘んで、指先で揉んでみてもらえば、名前の通りまさにキュウリグサだ。駐車場の脇では、何年かかけて少しづつカラスノエンドウを追いやり、スズメノエンドウが繁茂してきている。花の色や実の大きさなどを見比べてもらい、みんなでどちらか見分けてもらう。ただ見るからにサヤエンドウのような形なので、ここでもやはり五感を働かせるために味見をしてみると、小さな実ではあるが確かに豆の味がする。春の香りがテーマではあるものの、キュウリやエンドウとは、もう季節は夏だねと笑いながら観察路を進んだ。

ムラサキケマンの種飛ばしやシュレーゲルアオガエルの鳴き声もこの時期の定番であるが、五感を使った観察という文脈の中では、触覚であり、聴覚である。2月の大雪で折れてしまったヤブニッケイから枯葉をちぎってかいてみると、まだしっかりと香りが残っており、後で生の葉とかぎ比べてみると、生の葉より乾燥した葉の匂いの方がよいという意見も出た。シュレーゲルアオガエルの卵塊はツルツルし、ヤマウコギは少しエグミが残るものだと知り、林縁や林内に咲くのはコバノガマズミ、ツリバナ、ハナイカダやキンラン、ギンラン、エビネであることを知る。

2時間弱という短い時間にもかかわらずたくさん覚えることができたが、これは視覚だけでなく、嗅覚・味覚・触覚・聴覚と五感を最大限に働かせた結果だろうと思う。大草谷津田を満喫したひと時であった。

さて、最後に一つ疑問が出てきた。増えすぎたため間引いたショウブをお土産にもらって帰り、当然のごとく風呂に浮かべて菖蒲湯にしたのだが…。

林内での森林浴や菖蒲湯による暑気払いには五感で言う何と何を働かせたことになるのだろうか。